

JAPIC NEWS

財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC)



7

2008

Contents

■ 巻頭言		
「30年ぶりのヨーロッパ」	日本病院会 副会長 堺 常雄	2
■ インフォメーション		
「JAPIC 医療用・一般用医薬品集インストール版2008年7月版」	7月末発売!	4
「JAPIC 医療用医薬品集2009」(検索用CD-ROM付)	9月上旬発売!	4
「JAPIC 一般用医薬品集2009」	9月上旬発売!	4
重篤副作用疾患別対応マニュアル 第2集	7月発行	5
新刊のご案内 「JAPIC」ジャピックジャーナルNo.11	発行しました	5
■ トピックス		
平成20年度JAPICユーザ会を開催しました		6
JAPICユーザ会についての感想	万有製薬株式会社 臨床医薬研究所 鈴木 茂雄	6
■ コラム		
新制度における情報教育	武庫川女子大学薬学部 薬学科長 十一 元晴	8
■ 図書館だよりNo.217		11
■ 情報提供一覧		11

No.291

30年ぶりのヨーロッパ

日本病院会 副会長

JAPIC評議員 堺 常雄 (Sakai Tsuneo)



昨年の4月から日本病院会の副会長を仰せつかり、役割の中でJAPICの仕事をやらしていただいている。他にも幾つか担当があってその1つの国際委員会の関係で昨年からは国外の会議に出席する機会が増えた。昨年は韓国とインドネシアとアジアの国だったが、今年はジュネーブ、韓国、パリとヨーロッパが加わった。

最初のジュネーブは4月初旬、WHOでの会議でICD10という国際疾病分類を改定するために日本病院会が金銭的協力をしている関係での参加だった。WHOといえども財政的には大変であり、日本病院会からの経済的支援は高く評価されており、また日本の医師がICDに深く関わっている点も評価を受けているところである。

ジュネーブへ行って驚いたのは物価の高さである。とにかくホテルが高いのにはびっくりした。ちょうどスウォッチ関係の大きなイベントがあったためでもあるということだったが普通ではなかった。日本円が安いせいもあるのかもしれない。季節は日本よりも1カ月くらい遅れている感じで、丁度若葉が芽を出しかけていた。既に夏時間ということで日本との時差は普通の8時間ではなく7時間だった。ジュネーブは初めてなのでとても興味があったが、連日の会議と雨模様の毎日で中々楽しむことはできなかった。それでもたった2日晴れた週末を利用して電車での短い旅ができたこと、レマン湖の食事付クルージングができたことは本当に良かった。それ

にも増して感動したのは宗教改革に寄与したカルヴァンの拠点だったサンピエール大聖堂を訪れた時だった。彼が説教に使っていた椅子が残っており監視の眼を盗んでそれに座ることができたのである。勿論、写真に撮って証拠にすることはできなかった。感激の理由は私が働いている事業団の基礎を作ったのはカルヴァン派の青年達で、プロテスタントの理念を大切にしていたからである。私はクリスチャンではないが、大聖堂の中で在りし日のカルヴァンのことを思っの感慨は一入だった。

WHOで目に付いたのは、笹川良一さんの銅像があったことと、中のカフェテリアで昼食をとったときにビール、ワインなどのアルコール類を売っていたこと、それに喫煙コーナーがあって職員がそこでタバコを吸っていたことである。私もたまにパイプをやるので大きなことは言えないが、WHOとタバコ、昼食時のアルコールはしっくり来なかった。文化の違いと言ってしまうばそれまでなのだろうか。笹川さんはWHOに対して巨額の寄付をされたということであった。現在の高額寄付



カルヴァンの椅子

者はビル・ゲイツと言っていた。

ジュネーブといってもちょっと車で行けばフランスであり、歓迎の夕食会はそこで行われた。こんなに近いのにスイスはEUに入っておらず、通貨はスイスフランだった。歴史の違いを垣間見ることができた。

今年2度目のヨーロッパは6月中旬のIHF(国際病院連盟)の会議だった。日本病院会の山本修三会長が理事をされており、その関係での訪問だった。IHF本部はジュネーブに近いフランスにあるのでジュネーブのホテルに滞在した。わずか1ヶ月の違いだったが木々の緑は初夏を思わせる美しいものになっており心を洗われた。今回も天気には恵まれなかった。ただ飛行機の乗り継ぎの関係で1泊2日したパリは快晴だった。パリは30年前に1度来たことがあるが、その時はパリ在住の日本人画家(今ではすごく有名な方)のお世話で色々な所に連れて行っていただいたのでお客様気分のパリ見聞だった。今回は前回と異なってパリの歴史的重み、ユーロの強さを実感させられた。

当初の予定ではジュネーブを金曜の遅い夕方に発って、パリ到着は夜になるのでその晩は何もできないだろうということだった。ところが会議が早く終わりひよっとするとパリの夜を楽しめるのではないかとということで、急遽2時間早い便を予約した。正確に言えば予約したつもりだった。ところが時間になってカウンターに行ってみると実はウェイトिंगリストに入っただけで確約されたものではなかった。結局最初の前定の便で行くことになったのだが、荷物だけは早い便で出てしまっており、航空会社とその間に色々やり取りがありコミュニケーション不足を痛感した。せっかくのパリだから早く着いたらムーランルージュでも行こうなどと勝手に思い決めていたのだが、ホテルでの遅い夕食になってしまった。それはそれで楽しい食事だった。

翌日はうそのように晴天で午前中は一行4人が夫々自由行動、昼はセヌ川の昼食付きクルージングを計画した。クルージングについては現地の日本人の方がアレンジしてく

れたのだが、ここでも思わぬハプニングが待っていた。時間が迫っており5人が2つのタクシーに分かれて乗ったところまでは順調だった。我々3人はフランス語ができないので日本人案内人がタクシーの運転手に行く先を伝えてくれて彼女は別のタクシーに乗り込んだ。運転手はたまたま現地人ではなく外国人労働者という感じでどうも行先に不案内のようだった。寂れた船着場で我々を下ろすと急いで立ち去ってしまったがどうも様子がおかしいのである。実はクルージングの乗船場は幾つかあって乗る舟によって違っていた。そこはくだんの案内人が指定したところと違っていたのである。連絡の取りようがなくしばらく待っていたが、別の乗船場へ行こうということでたまたま客を降ろしたタクシーをつかまえてそこへ直行してもらった。しかし時間が過ぎており日本人らしき人は誰もいないではないか。幸い我々が乗る予定の船はまだ出発していなかったので何とか交渉して乗せてもらおうとしたところ、あわてて到着したタクシーから案内人が降りてきてどうにか全員出港に間に合った。彼女らは心配して我々がいた乗船場へ探しに行ってくれたのであった。これも状況をしっかり把握していて注意を払っていれば何等問題のなかったことで反省しきりであった。それでもクルージングはとても楽しくパリの休日を満喫できた。セヌ川からのパリの眺めは素晴らしく、歴史あふれる街並みは圧巻だった。今回用いた顔写真はその時撮ったものである。



Information インフォメーション

7月末発売! 「JAPIC 医療用・一般用医薬品集インストール版2008年7月版」

■ 収録データ

- ・医療用医薬品データ:2008年6月までのJAPIC入手添付文書に2008年7月薬価基準追補収載分を加えたJAPIC医療用医薬品集添付文書情報・薬剤識別コードデータ及び薬価データを収録
- ・一般用医薬品データ:2008年4月実施の一般用医薬品調査結果を含む2008年6月までのJAPIC入手添付文書に基づくデータを収録

■ 仕様 (Windows・Macintosh両対応)

医療用薬および一般用薬の自由語検索・規制情報検索、医療用薬の薬剤識別コード検索などの検索機能を搭載し、医薬品集本文表示機能、iyakuSearch掲載医療用薬添付文書PDFへのリンク・表示機能などの各種情報表示機能を搭載しています。また、医療用医薬品集本文編集・テキスト出力機能・採用品データ引継機能などの院内採用医薬品集作成補助機能、YJコードリストから採用品への一括登録機能 (Win用)も搭載しております。

■ 価格・お申し込み

単品15,000円 (税・送料込) / 年間セット (1・4・7・10月版の4枚セット) 25,000円 (税・送料込)
まとめてご購入いただく際には割引制度などもございますので、
事務局 業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276 FAX 0120-181-461) まで、お問い合わせください。

9月上旬発売! 「JAPIC 医療用医薬品集2009」(検索用CD-ROM付) 「JAPIC 一般用医薬品集2009」

「JAPIC 医療用医薬品集2009」(検索用CD-ROM付)及び「JAPIC 一般用医薬品集2009」を今年も9月上旬に発刊いたします。是非この機会にご購入頂けるようお願い致します。

《JAPIC 医療用医薬品集2009 (検索用CD-ROM付) の特長》

- ◇2008年7月薬価基準追補収載分までの医療用医薬品を網羅 (約17,000製品)。
- ◇医療用薬・一般用薬情報を収録した検索用CD-ROM (非インストール) を添付。
- ◇価格は昨年と同じ¥13,650 (税込)。

《JAPIC 一般用医薬品集2009の特長》

- ◇国内流通の一般用医薬品、約12,000製品を収録
(2008年4月実施の一般用医薬品調査結果を含む2008年6月までの一般用医薬品情報を掲載)。
- ◇本文に組成・添加物・効能・用法データを記載、および新一般用医薬品を中心に添付文書全文を掲載。
なお、今版から一般用医薬品相対的リスク分類を製品毎に掲載。
- ◇価格は昨年と同じ¥9,450 (税込)

7月発行

重篤副作用疾患別対応マニュアル 第2集

第1集に引き続き、(社)日本病院薬剤師会の協力のもと「重篤副作用疾患別対応マニュアル 第2集」(10マニュアル)を発刊します。本マニュアルは厚生労働省の重篤副作用疾患総合対策事業として、平成17年度から4年間の計画で作成されているものです。

事業の目的として、「副作用は、臨床医の専門分野とは異なる臓器にも発生しうること、重篤な副作用の発生頻度は一般に低く、個々の臨床医によっては副作用に遭遇する機会が少ない場合がありうることから事後対応ではなく、予測・予防的な安全対策への転換を目的とする。」ということが謳われています。この目的のもと、各関係学会・(社)日本病院薬剤師会において、マニュアル作成委員会が設置されマニュアル原案の作成が行なわれています。

本マニュアルは厚生労働省及び医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページにおいて公開されていますが、JAPICでは唯一の成書として昨年7月に19マニュアルをまとめた第1集を発行し、今回第2集を発行します。今後もマニュアルが公表される度にまとめて出版する予定です。

なお、本書は調剤報酬の薬剤服用歴管理指導に際して、〔自覚症状の有無の確認に当たっては、「重篤副作用疾患別対応マニュアル」等を参考にすること。〕として紹介されています。

◎第2集収載の10マニュアルは以下のとおり。

- ・非ステロイド性抗炎症薬による蕁麻疹/血管性浮腫
- ・喉頭性浮腫
- ・血管性浮腫
- ・アナフィラキシー
- ・偽膜性大腸炎
- ・消化性潰瘍
- ・麻痺性イレウス
- ・薬物性肝障害
- ・悪性症候群
- ・薬剤惹起性うつ病

■平成20年7月発行

定価1,680円(本体1,600円+税)、B5版、約290頁

■JAPIC会員特価 1,512円/1部(送料込)

新刊のご案内

「JAPIC」ジャピックジャーナル No.11 発行しました

◆目次

医薬品情報：時の動き

- | | |
|---|------------------------------------|
| 憂鬱な健康診断 | 吉田 隆(サノフィ・アベンティス株式会社 執行役員) |
| 企業活動の礎「コンプライアンス」 | 塩野 元三(塩野義製薬株式会社 代表取締役社長) |
| COEとグローバルCOE | 柴崎 正勝(東京大学大学院薬学系 研究科長・薬学部長) |
| 医薬品情報とともに30年 | 望月 眞弓(前:共立薬科大学医薬品情報学講座 教授) |
| 明治11年の日本を旅した英国人女性の旅行記を読んで | 島谷 克義(ファイザー株式会社 顧問) |
| アルツハイマー型認知症治療薬塩酸ドネペジル
(アリセプト)の創製と最近の話題 | 小倉 博雄(エーザイ株式会社創薬第一研究所 脳科学グループ統轄部長) |
| 安全対策における行政の最近の動き | 松田 勉(厚生労働省医薬食品局安全対策課 課長) |
| バイオ医薬品をめぐる最近の動向 | 早川 堯夫(独立行政法人医薬品医療機器総合機構 顧問) |
| 医療機関への情報提供：製薬企業の立場から | 浅田 和広(日本製薬工業協会医薬品評価委員会PMS部会 副部会長) |
| 医療機関への情報提供に期待するもの | 林 昌洋(虎の門病院薬剤部 部長) |
| 日本病院薬剤師会：専門薬剤師への取組み | 岩本喜久生(前:日本病院薬剤師会専門薬剤師認定制度委員会 委員長) |

◆会員の皆様にはお送りしておりますがご希望の方には贈呈いたしますので必要部数をご連絡ください。事務局(TEL 0120-181-276)

T トピックス TOPICS

■ 平成20年度JAPICユーザ会を開催しました

平成20年度のJAPICユーザ会を6月10日(火)長井記念館ホール(東京)、6月12日(木)大阪ガーデンパレス(大阪)で開催しました。参加者は東京80人、大阪40人で例年より少なめでしたが、熱心に聴講いただきました。

理事長挨拶、JAPIC概況と平成20年度事業計画の説明の後、今回は代表者が纏めて話すという今までのやり方と変えて、ユーザ会員に日頃関係のある部署から各々の事業現況について約2時間説明いたしました。即ち添付文書、文献情報(国内)、文献情報(海外)、開発企画(iyakuSearch plus 及び類似名称検索システム)及び業務・渉外の各担当です。各業務の現況と改善点、新たな事業についてのトピックスや会員の皆様へのお知らせも含めてJAPICの医薬情報に関する事業全体を把握して頂く観点から説明させていただきました。また、特別講演として医薬品医療機器総合機構の三瀬勝利先生より「変貌する食中毒と安全対策」をお願いしました。近年の食中毒の変遷、食中毒原因菌の変貌に始まり、更には新興感染症(AIDS、O157、新型インフルエンザ、SARS等)や再興感染症(結核、コレラ等)の詳しい説明がありました。またこれらの感染症が食材そのもの及び

食材の衛生的取り扱いと密接な関係があることを示唆されました。そして感染症予防のための原則等我々が日常注意しなければならない事をあげられました。食中毒、感染の概要をまとめて聞くことが出来たので、感銘を受けられた参加者も多かったようです。(MY記)



大阪ガーデンパレス会場

■ JAPICユーザ会についての感想

万有製薬株式会社 臨床医薬研究所

ファーマコビジランス管理部 コミュニケーション&プランニング課マネージャー 鈴木 茂雄(Suzuki Shigeo)

私は今現在、製薬企業にて安全性統括部門に所属し、安全性情報の収集/評価/報告業務に携わっております。とは言うもののGVP業務と係るようになってまだ2年と数ヶ月、JAPICのこのような会に参加するのも初めてのことです。そのような私に参加記の記載依頼があり、少々戸惑いもありますが、ある意味新鮮な目で感想をお伝えすることができると思いお引き受けしました。

前置きはこれくらいにして、例年、どのようなテーマと内容でユーザ会が開催されているか存じ上げませんが、冒頭に、「当会議もマンネリ化しつつあり」とご挨拶がありましたことか

ら、おそらくここ数年は同様な内容であったと推察いたします。それが良いか悪いか、その判断は、当会参加者によるアンケート結果にお任せすることにして、私自身にとっては良い内容であったと思います。

しかしながら、当ユーザ会の構成についてまず一言、製薬企業の会員数は頭打ち、製薬企業以外の会員つまり医療機関、診療所、薬局等の会員数が増加していると説明があり、また、当会後の懇親会にて、古くからの会員企業であっても、同会には研修目的で、新人又は業務経験の浅い担当者がトレーニング目的で参加されるケースがあると参加者から

伺いました。つまり、業務経験のあるベテランから経験の浅い方まで幅広い方が参加されていると考えられます。そこで、現在のユーザ会、第一部の事業計画及び各事業概説、第二部のトピックス(今回は三瀬先生による特別講演「変貌する食中毒と安全対策」)の二部構成から、三部構成に変えてみてはいかがかと思えます。第一部では主に経験の浅い方を対象として総論を中心に、第二部では主にベテランを対象として各論を中心とする。その間又はそれらの後に第三部としてトピックスを交え、可能であれば、JAPICサービスのデモンストレーションコーナーを設けて、第一部と第二部の間に、実際にユーザにサービスを試用できる時間と場所を提供するとよいと思います。三部制及びデモコーナーの導入に当たっては、アンケートにて、事前に参加者から、過去の参加回数、業務経験年数、ニーズを調査しておく必要はありますが。

今回少し残念であったのは、Q&Aの時間があつたにもかかわらず一つとして質問が会場からあがらなかったことです。私自身も沈黙の参加者の一人でしたが、この点は主催者側も参加者側も少し考えてみたほうがよいかもしれません。それに関連して、FAQのサイト紹介はあつたものの、最近の問合せの傾向や具体事例の概説がなかったこと。日常業務に忙殺されているユーザの皆さんにはサイトにアクセスする時間がなかなかないので、次回のユーザ会からは、JAPICのサービスをより深く理解し、疑問点を共有する目的で、是非ともFAQの事例紹介の時間を設けていただきたいものです。

最後に懇親会について、この場では主催者とユーザ、ユー

ザ同士の情報交換の場、つまり、ユーザにとって、JAPICのサービスを各ユーザ固有の事情に当てはめた場合の、最善、最適な活用法を探ることができ、また主催者側もユーザからの直接意見を聞く絶好の機会でもあります。名札について一言。より効率的に交流するために、ユーザ団体名をもっと大きくわかりやすく印字し、懇親会では名札の表示を啓蒙していただきたいですね。

いずれにしても、世の中の環境変化、顧客(JAPICにとっての顧客すなわちユーザ、またユーザにとっての顧客)の変化するニーズが反映されたさらに良いサービスを提供していただきたいですし、ユーザ会はこれまで以上に情報共有の場であり、互いの理解の場でありたいものです。

主催者側の皆様、同会の企画並びに開催をありがとうございました。また日々サービスの提供をありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。



長井記念館ホールロビーにて懇親会



36年の伝統を誇る医薬品集の使いやすい「普及新版」が登場!! JAPIC医療用医薬品集 普及新版2008

価格・
ボリューム **1/2**

重要な項目だけを抽出した
「医薬品集」普及新版を作成しました!

後発品の効能・用量の違いも反映した国内使用
医薬品約17,000製品を収録

◆編集・発行
(財)日本医薬情報センター
(JAPIC)

B5判 約1,500ページ
ISBN:978-4-903449-44-9

お申込先 ☎ TEL 0120-181-276 (税込)

7,875円

新制度における 情報教育

武庫川女子大学薬学部 薬学科長
十一 元晴 (Ju-ichi Motoharu)



●はじめに

平成18年度から薬学の就学年限が改定され、「医療の場で専門的職業人として信頼される薬剤師の育成」を主目的とした6年制の学科と「研究者・技術者の育成」を主目的とした4年制の2学科が設置された。6年制課程の卒業生の進路は、主として薬剤師として病院・薬局、ついで製薬企業（開発・学術・研究職・医薬情報担当者（MR））、その他薬務行政等、他方4年制課程の卒業生の進路は、主として製薬企業（開発・学術・研究・MR）、その他行政、大学・研究所等が考えられる。「根拠に基づいた医療（EBM: Evidence-Based Medicine）の実践」という観点から見ると、医療の現場において薬剤師は「EBMの実践者」、製薬企業などの人は「EBMの提供者」となる。何れにしても、医療に関わる者としての教養・知性は勿論のこと、薬学の基礎から専門的な知識を修得することは共通の事柄になっている。すなわち最終目的は違っても、いずれも「薬」という物質をベースにした学問であり、「EBMを実践出来る者」の育成のために、医薬品情報学を修得しておくことが重要である。

●医薬品情報学について

1980年、薬学教育協議会から提出された薬学教育基準改正案に、はじめて「医薬品情報学」が正式科目として挙げられた。その内容は、従来から行なわれてきた「薬学情報学」が中心になるものであった。1996年から新しい薬剤師国家試験制度が実施されたが、同じ年に薬学教育協議会から出された新薬学教育基準、文部省を主にした薬学教育の改善に関する調査研究協力者会議から提出されたカリキュラム案と共に臨床薬学分野の科目として「医薬品情報学」が挙げられた。さらに、平成14年、日本薬学会から「薬学教育モデル・コアカリキュラム」が提案された。情報教育のカリキュラムとして、「薬物治療に役立つ情報:医薬品情報」には、情報、情報源、収集・評価・加工・提供・管理、データベース、EBM、総合演習の項が、また、「病院実習:情報を正しく扱う」には、病院での医薬品情報、情報の入手・評価・加工、情報提供の項が、さらに「薬局実習:情報のアクセスと活用」には、薬剤師の心構え、情報の入手と加工、情報の提供の項が、それぞれ一般目標と詳細な到達目標として示されている。

これを基本として医薬品情報教育が実施されることになった。薬剤師による医薬品情報管理 (Drug Information Service、いわゆるDI) が発展してきた経過を見ると、医薬品情報が量的にも質的にも不十分な時代から、情報化が急速に進展し、必要な情報が簡単に、大量に入手可能になってきた今日、薬剤師のDIを支える医薬品情報学の教育は重要になっている。医薬品は病気の治療・予防に用いられているが副作用も持っており、治療においては薬効を最大限発揮すると共に、副作用を最小に抑える必要がある。医薬品の適正使用をするためには、情報を収集し、検討し、提供する必要がある。医薬品情報学は、この問題に関与する学問である。

平成9年の改正薬剤師法において「薬剤師は患者またはその看護をしている者に対し、調剤した薬剤の適正使用に必要な情報の提供義務」が規定され、また、薬事法の情報提供に関する項でも、「製薬企業や医薬品卸業は、医薬品等の有効性、安全性に関する事柄、適正使用のために必要な情報を収集、検討し薬局開設者、病院、診療所の医師、歯科医師、薬剤師およびその他の医療関係者に提供するように努めなければならない」と医薬品情報の提供について法律で規定されている。医薬品情報は製薬会社作成の種々の資料、厚生労働省関連の情報があり、例えば医薬品の一般名・商品名・治験名・化学名・化学構造名からの調査や副作用・病名などからの調査が挙げられる。また医薬品情報のデータベースとして膨大な情報の中から必要な情報を正確かつ短時間に得るためにオンラインやインターネットを利用した検索が必要不可欠になっている。

● 本学薬学科における医薬品情報教育の現状

本学では1年次に、情報環境を知り、安全に有効に使

える基礎的知識・技能を習得するために「基礎情報I」を開講している。ここではパソコンのネットワークに関する基礎的知識を身につけるとともに、ワープロ、表計算、プレゼンテーションなどのソフトを活用する技能を習得させ、「基礎情報II」では基本的なWeb作成法とPower Pointを用いたプレゼンテーションの活用法を習得させている。薬学教育モデル・コアカリキュラムの医薬品情報関連部分の教育に関しては、臨床薬学の一分野として情報管理の知識と技術の習得とその応用を、「薬物治療学各論I, II, III」(4年次前期)、「-IV, V」(4年次後期)で講義する計画である。「薬学情報学」としての独立した科目でなく、該当する個所での講義により、医療現場で活用できる情報教育が出来ることを期待している。担当教員間の連携が教育効果を左右するので、講義内容の刷り合わせが重要である。また、情報教育には、講義だけでなく実習が必要であるが、実務実習のための情報科目を4年次後期に予定している。5年次の学外に於ける実務実習では、病院・薬局で医薬品情報の実習が行なわれるので、その前後の対応も重要である。実習前の基礎教育では国家試験の出題範囲をカバーする内容を講義し、終了後には、より高度な内容の教育を考えることも大切であろう。現行の旧カリキュラムでも、医療薬学実習IIIおよびVにおいて医薬品情報教育を行なっている。ここでは医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページをはじめとするIT情報の採取方法、添付文書事項の検索、緊急安全性情報の採取など様々な情報検索を学んでいる。その他新薬の情報や同効同種の薬の比較実験結果などの調査、EBMに関しては実例を用いて手順を学ばせている。この経験から得られたノウハウを活用したいと考えている。一昨年、6年制を実施した日本の薬学の実情を参考にするために台湾からの視察団

が来学された。その際に、特に薬学英语教育のカリキュラムについて参考にしたいと熱心な質問があった。文献を読解し正確な情報の把握が重要事項であることから、薬学教育における語学教育と情報教育の連携の重要性を確認した次第であった。

● 今後の課題

医療法の改正によって薬剤師も医療チームの一員と規定され、今後一層責任の重い職種に携わることになった。服薬管理の一元化について、医師・看護師に副作用情報を提供したり、副作用の出現を監視することについては薬学で学んだ者には、「化学構造式をみて、様々な情報が読み取れる」という、医師・看護師等の方々と比較して絶対に負けない特色を身に付ける必要がある。日頃から意識的に構造式に注目するという習慣が大切である。

本学は、毎年〔財〕日本医薬情報センターから「日本の医薬品 構造式集」を提供いただいております、1年次に開講されている科目「初期演習」においてクラス担任の先生方に配布をお願いしている。入学時から医薬品に関して、とくに構造式に関心を持ってくれることを期待している。上級学年になるにつれ、履修科目の内容から構造式集を参考にする学生が結構増加しているようで嬉しく思っている。また、教員にも構造式の入っている医薬品集は、講義の参考に利用して頂いている。同センターから公開されている「iyakuSearch」（医薬サーチ）には医薬品添付文書、臨床試験情報、医薬文献、学会演題情報などの検索が可能であり、これらの利用を促進したい。また、社会人大学院で学んでいる現職の薬剤師の方々にも、これらの検索が有用であることを知ってもらう努力をしたいと考えている。

● 終わりに

医薬品情報学は、広範囲な薬学の知識を総合した学問であり、その教育を効率的に行い、学生の理解を得るためには、薬学で学ぶ多くの関連科目との連携が重要である。薬学情報学を学ぶには、基礎的な統計学、薬に関する薬理学、生物薬剤学、製剤学、薬物治療に関する薬物治療学、臨床医学などを学んだ上での履修が望ましい。新生に、卒業までの明確な道筋を示し、常に全体像を俯瞰させることが重要と考えている。

【新着資料案内 平成20年5月14日～平成20年6月4日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。

閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈 配列は書名のアルファベット順 〉

書名	出版社名	出版年月	ページ	定価
医療機器の知識 FDAの承認審査プロセス 著者名/石居 昭夫	薬事日報社	2008年4月	287p	¥3,150
医薬品GLPガイドブック2008 著者名/日本薬剤師研修センター 編	薬事日報社	2008年3月	222p	¥3,675
厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 難治性膵疾患に関する調査研究 平成17年度～19年度 総合研究報告書 著者名/主任研究者 大槻 眞	難治性膵疾患に関する 調査研究班	2008年3月	377p	
急性中毒情報ファイル 第4版 著者名/森 博美、山崎 太 編著	廣川書店	2008年1月	780p	¥18,900
MMRワクチン薬害事件 新3種混合ワクチンの軌跡 著者名/MMRワクチン薬害事件弁護団 編・著	井尻 潔 法律事務所	2008年2月	181p	非売品
オレンジブック 保険薬局版 2008年4月版 著者名/日本薬剤師会 編	薬事日報社	2008年4月	350p	¥4,515
OTC医薬品事典 第11版 一般用医薬品集 著者名/日本OTC医薬品情報研究会 編	じほう	2008年4月	1,023p	¥5,250
産科婦人科用語集・用語解説集 改訂第2版 著者名/日本産科婦人科学会 編	金原出版	2008年3月	436p	¥8,295
先発・代表薬でさがすジェネリック医薬品リスト平成20年4月版 著者名/医薬情報研究所	じほう	2008年5月	570p	¥2,940



情報提供一覧

【平成20年6月1日～6月30日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、

宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当(TEL 03-5466-1812)までお知らせ下さい。

情報提供一覧		発行日等	データベース一覧		更新日
〈出版物等〉			〈iyakuSearch〉		http://database.japic.or.jp/
1.「医薬関連情報」6月号		6月27日	1. 医薬文献情報		月1回
2.「Regulations View Web版」No.154		6月27日	2. 学会演題情報		月1回
3.「添付文書入手一覧」2008年5月分(HP掲載)		6月27日	3. 医療用医薬品添付文書情報		月2回
4.「JAPIC NEWS」No.291		6月27日	4. 一般用医薬品添付文書情報		月1回
5.JAPIC「医療用医薬品集」2008更新情報2008年6月版		毎月末日	5. 規制措置情報		毎日
〈速報サービス等〉… FAX、郵送、電子メール等で提供			6. 臨床試験情報		随時
1.「医薬関連情報 速報FAXサービス」No.638-641		毎週	7. 日本の新薬		随時
2.「医薬文献・学会情報速報サービス(JAPIC-Qサービス)」		毎週	8. 学会開催情報		月2回
3.「JAPIC-Q Plusサービス」		毎月第一水曜日	〈JIP e-InfoStreamから提供〉 https://e-infostream.com/		
4.「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス(JAPIC Daily Mail)」No.1721-1741		毎日	1.「JAPICDOC速報版(日本医薬文献抄録速報版)」		月1回
5. JAPIC Weekly News No.158-161		毎週木曜日	2.「JAPICDOC(日本医薬文献抄録)」		月1回
6.「感染症情報(JAPIC Daily Mail Plus)」No.244-248		毎週月曜日	3.「ADVISE(医薬品副作用文献情報)」		月1回
7.「PubMed代行検索サービス」		毎月第一・三水曜日	4.「MMPLAN(学会開催予定)」		月1回
8.JAPIC「医療用医薬品集」2008更新情報2008年5月版		毎月10日	5.「SOCIE(医薬関連学会演題情報)」		月1回
			6.「NewPINS(添付文書情報)」(月2回更新)		月2回
			7.「SHOUNIN(承認品目情報)」		月1回
			〈JST JDream IIから提供〉 http://pr.jst.go.jp/jdream2/		
			「JAPICDOC(日本医薬文献抄録)」		月1回

平成10年～平成19年公表分までの審査報告書の全文を収録!

日本の新薬

全30巻

— 新薬承認審査報告書集 —



B5判

財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC) 編集・発行

●さらに5巻を刊行。全30巻に!!

●本書は新薬の承認審査における厚生労働省の『審議結果報告書』および(独)医薬品医療機器総合機構等の『審査報告書』をすべて収録しており、**新薬開発、薬事・市販後対応、医学・薬学教育に役立つ!!**

●お得で便利なセットでの購入をお薦めします!!

全30巻セット 693,000円(税・送料込)のところ、半額の**346,500円**(税・送料込)で。

追加分5巻セット 115,500円(税・送料込)のところ、半額の**57,750円**(税・送料込)で。

ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュどうぞ!!



日本古来の染料・薬用植物で万葉の頃から沢山の歌に詠まれた。かつては武蔵野にも分布していたが、最近是全国的に産地が激減している。根は鮮やかな紫色で漢方では紫根(シコン)と称し、火傷の回復に著効のある紫雲膏などに配合される。(ky)

むらさき

JAPIC ホームページより
<http://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。